

平成 18 年 7 月 4 日

物流連ニュースリリース

## 栗林名誉顧問を委員長として 第 9 回 政策・広報委員会を開催

(社)日本物流団体連合会(物流連)は、平成 18 年 7 月 3 日(月) 14:00 から霞ヶ関東京會館「エメラルドルーム」において第 9 回政策・広報委員会[委員長: 栗林 貞一 名誉顧問]を開催した。前会長の栗林名誉顧問が引き続き委員長として運営にあたることになった同委員会の 18 年度初回開催である。

同委員会はこれまで、初等・中等教育における教科書の記述のあり方について集中的に議論し、物流の意義を適切に記述する「学習指導要領の改訂」に向け、要望書を文部科学大臣及び国土交通大臣に提出(3月27日)してきた。引き続きその実現に向けて取り組むと同時に、今までの活動に加えて今年度は小中・高校生の物流に関する認識を高めるための教科書以外の方策や、高等教育・社会人教育のあり方について検討を進めていくこととし、今回は、まず、神奈川大学の中田信哉教授から、大学における物流教育について説明を受け、つづいて小中・高校生に対する教科書以外の方策について検討した。

中田教授による大学および学生の物流に関する認識と関連した取り組み傾向について広範な説明があり、物流業界へのリクルート活動のアドバイスに関する質問など活発な質疑が交わされた。

### 1. 中田教授による大学における物流教育についての説明の主たる内容は次のとおり

神奈川大学における学生の就職先をみると、全体の 20% は物流業界ないし企業の物流部門に就職しており、大手物流事業者への就職希望者も多い。就職応募状況に見る限り物流業界の問題というより企業規模の大小によるもので他の産業と共通したいわゆる中小企業の課題のひとつと認識している。

少子化が進む近年、定員割れをしているような大学であっても物流という学部・学科を作らないのは、高校生にとっては物流を知らないので応募する魅力を感じないからである。それまでの教育では物流について教えられていないから知らないのであり、教える教師も物流を知らないから教えられない、というナイナイ尽くしの教育環境によるものである。

ところが入学して就職を意識してくると物流にも関心を持つようになってくる。

神奈川大学においてはカリキュラムにおいても経済学科「企業と産業を学ぶコース」、現代ビジネス学科「貿易と国際ビジネスを学ぶコース」、「経営とマーケティングを学ぶコース」、

「企業と会計を学ぶコース」に物流論、交通論、国際運輸論が共通選択科目やコース指定科目として横断的に組み込んでおり、学生の物流に対する知識を涵養している。物流を知らない生徒を教育をする側の「物流を知る教師づくり」の必要性を認識し、その役割を果たしていることも自負している。

文部科学省へ申請、許可を要する学部・学科を設置するより、このようにコースを制定して物流を教える方向が有効ではないかと考える。

神奈川大学での就職指導での特徴は 一年次から四年次学生までを対象としたキャリア形成・就職支援プログラム 資格取得講座の学内開設 インターンシップ(実習)制度の導入がある。

物流業界としても事業活動を紹介する現場見学会の開催等、学生や教師への啓蒙に向けた取り組みを期待する。

## 2. 小中・高校生に対する教科書以外の方策について

前回の会議で提案のあった内容等を踏まえ、事務局側でメニュー化した方策案を提出し、それに基づいて、各委員より活発な意見が出された。

今後、このメニューを元に委員会以外の会員にもアンケートを実施し、広く意見を求め、今後の具体的な推進策を検討することにした。

## 3. その他報告

### (1) 「物流施設見学会」実行委員会の設置

物流見学会を既に実施している、および今後実施したい企業・団体の広報担当者を中心とした「実行検討委員会」を立ち上げる方向で全会員向けに意向打診と参加を呼びかける。

### (2) 平成 18 年度の大学寄附講座の進捗状況

関西大学での春期講座は登録学生 156 名、7 月 6 日最終講義

横浜国立大学での講座は夏期集中講座から秋期講座に替わって 10 月 5 日から開講

### (3) 関西大学商学部での創立 100 周年記念事業の異業種交流会に、物流連として出展

### (4) 3PL 人材育成研修他の研修プログラム、募集パンフレット配布

以上

(連絡先) 担当 西城、新開  
03-3593-0139